

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



【道後小学校】

＜第4学年：広げようハートフル道後＞

まず、児童は、校内や地域の商業施設など身近なバリアフリーについて調べ、様々な立場の人たちが便利で快適に目的を果たせる工夫があることに気付いた。

その後、視覚障がい、聴覚障がい、車椅子介助、高齢者の4つの体験を行い、それぞれの立場の人がどのような生活をしているのか、また、生活の中でどのようなことが困るのか、自分が解決したい課題を立てた。その後、福祉ボランティアを学校に招き、障がいのある人や高齢者の話を聞いたり、実際に体験活動に取り組んだりすることを通して、障がいのある人や高齢者の生活の様子や適切な介助の仕方を学んだ。



これらの活動を通して、児童は、相手の立場に立って考えることや行動することの大切さに気付いた。そして、自分たちにできることを考え、進んで行動しようという意欲を高めることができた。



＜第1学年：ふゆをたのしもう＞

学校に地域の方を招待し、お手玉やおはじきやこまなど様々な昔から伝わる遊びを教えてもらう交流会を行った。事前に、児童自身が挑戦したい遊びや目標

(できるようになりたいこと)について話し合う活動を設定したことで、自分の目標を達成しようと、地域の方にコツを教えてもらったり、友達とアドバイスをし合ったりする姿が見られた。コミュニケーションも活性化し、遊びに熱中して取り組んでいた。交流会をもつことで、遊びや人と関わることの楽しさを味わうことができた。振り



返り活動の際、昔の遊びができるようになったことだけでなく、昔から伝わる遊びが得意な地域の方がおられること、遊び方を優しく教えてくださったことを発表する児童もいた。この学習を通して、日本の伝統的な遊びのよさを知り、道後地域に住む人に関心を持ち、関わりを深めたいという気持ちにつながった。

